

HITACHI

Inspire the Next

日立液晶プロジェクター導入事例

鉄道博物館 様

日本



■ 導入までの経緯

JR東日本創立20周年記念事業のメインプロジェクトとして、さいたま市に建設された鉄道博物館様。鉄道技術や鉄道システムの変遷・歴史を、車両等の実物展示を柱に、それぞれの時代背景等を交えながら、学ぶことができる博物館です。なかでも、シミュレーターは、鉄道の原理や仕組みを体験的に学習できるため、子供たちに人気があります。鉄道博物館様は、前身である交通博物館時代にはシミュレーターにリアプロジェクションテレビを使用されていましたが、交換のタイミングを機に新しい機材を探していらっしゃいました。

しかし、通常、プロジェクターを使用する場合、スクリーンの位置を離す必要があり、またスクリーンもより大きくしなければならず、大規模な工事が必要とされました。そこで、これまで使用していたリアプロジェクションテレビの画面をスクリーンとしてそのまま生かして使える、投写距離の短い日立の超短投写距離フロントプロジェクター「CP-A100J」を提案した結果、採用いただくことになりました。

■ 導入によるメリット

日立のCP-A100Jは、世界初※の自由曲面レンズと自由曲面ミラーを搭載した、超短投写プロジェクター。投写距離は、80型の大画面でも本体を含みわずか63cm。縦置き設置すれば、床面や天井・側面にも投写可能で、狭い空間で大画面投写ができるため、アミューズメント機器のディスプレイ媒体としても最適です。29dB(静音モード)という図書館並の静粛性、イーザーメンテナンス性と併せて、電車のシミュレーターという狭い空間でも、エンターテインメント感あふれる映像空間が実現できました。

鉄道博物館様では、実際にJR東日本で運転士訓練用に使用されていた211系運転台との相乗効果で、まるで本物の電車を操縦しているようなリアルな臨場感が楽しめるようになり、今では、山手線として使用されていた205系、京浜東北線209系等々の他のシミュレーターと合わせて、1日の来場者が平均450組という大人気のシミュレーターになりました。

※2008年1月現在、日立調べ。



IF(アイエフ)design award
2008 受賞



2008年
グッドデザイン賞受賞

超短投写距離フロントプロジェクター
CP-A100J



 **日立コンシューマエレクトロニクス株式会社**
ソリューションビジネス事業部

〒244-0817 神奈川県横浜市戸塚区吉田町292番地

日立家電品のお買物・お取り扱いについてのご相談を承る窓口
家電ビジネス情報センター

0120-3121-19

受付時間 9:00~17:30 (月~土) 携帯電話、PHSからもご利用できます。
(日曜・祝日と年末年始・夏期休暇など弊社の休日は休ませていただきます)

- ・お客さまが弊社にお電話でご連絡いただいた場合には、正確にご回答するために、通話内容を記録(録音など)させていただくことがあります。
- ・ご相談、ご依頼いただいた内容によっては弊社のグループ会社に個人情報を提供し対応させていただきますことがあります。

このカタログの記載内容は2009年7月現在のものです。

お問い合わせ、ご用命は下記へ

- この印刷物は再生紙を使用しています。
- この印刷物は環境に配慮した植物性大豆油インキを使用しています。



NM-470P

2009.7